

人と人の間に灯る教育

始良・伊佐教育事務所長 上拂 博文

2月に行われた始良・伊佐地区生涯学習大会。そこの発表を聴きながら「教育の原点とは何か」を改めて考えさせられた。

30年続く霧島市の取組、「日韓親善子供大使『友好の翼』」を同市内の小学生4人が発表した。韓国語での自己紹介に始まり、写真や動画による交流の様子から、歴史や文化の違いを超えて交わされる温かな言葉やまなざしの積み重ねが、子供たちの中に確かな友好を育てていることを強く感じた。こうした姿に触れるとき、教育とは知識の伝達にとどまらず、人と人を結び付けていく営みなのだと改めて感じる。

また、伊佐市の地域文化を生かした狂言づくりの実践にも心を動かされた。神社の歴史や焼酎文化に魅せられた発表者の働きかけによって、劇団、書家、陶芸家、子供、地域住民を巻き込みながら舞台を形にしていく。発表の中で紹介された「どうして神社の塗装をするのか」との問いに「そうすれば神社が好きになるでしょ」と応えたやりとりも印象に残る。関わること、触れること、続けることが、人と地域を結び直し、新たな学びを生み出していくことを改めて教えられた。

2つの発表を聴きながら、ある映画の台詞がふと胸に浮かんだ。

「もし神が存在するのなら、人の心の中じゃない。人と人の間のわずかな空間にいる。この世に魔法があるなら、それは人が理解し合おうとする力のこと。たとえ理解できなくても、かまわないの。」

人と人が理解し合おうとする力、その過程そのものに価値がある。たとえ完全に理解できなくても、相手に関心を寄せ、関わり続けることが、人を支え、生活や社会の土台を形づくっていく。

生涯学習大会で感じた、人と人との間に生まれる温かな力。その灯を胸に、新年度の学校教育においても、子供たち一人一人に向き合う実践が着実に積み重ねられるだろう。そうした歩みの中で、人と人との間に灯る力こそが、「緑の教育」を支え、幸せや豊かさを感じられる未来を創り出していくのだと信じている。

令和7年度始良・伊佐地区生涯学習推進大会

本地区では、毎年、生涯学習の振興と活力のあるまちづくりを目的とした生涯学習推進大会を開催しています。本年度は、2月1日(日)に伊佐市文化会館において開催し、地区内各市町から計192人の方々に参加していただきました。

大会では、地区内で社会教育・社会体育の振興に顕著な業績を収められた方々や県優良少年少女団体及び地域高校生クラブ等の表彰を行うとともに、「霧島市日韓親善子供大使友好の翼事業」、「伊佐市郡山八幡神社のだれやめ狂言『大工の落書』の創作」、「始良市歴史民俗資料館における生涯学習の取組」、「湧水町文化協会の取組」等の活動発表を通じて、本年度の各市町の生涯学習の実践について詳しく知ることができました。

また、2025年度パラカヌー日本代表選手の下野勝也氏の「『自分(障害)と向き合う』～今の自分にできること～」と題した講演では、自分の可能性を信じ、何事にも意欲的にチャレンジし続けていくことの大切さについて改めて気付かされました。

生涯学習は、知識を習得して終わりではなく、学んだことを広く地域に発信していくことが重要です。今回の学びを各市町でも共有することで、地域全体の「学びのつながりづくり」へと発展していくことを期待しています。



下野氏の講演

鹿児島学力・学習状況調査結果を生かした授業改善

各学校において、鹿児島学力・学習状況調査の結果分析が行われ、確かな学力育成のための取組が進められていることと思います。今回は、前回の事務所だよりでお伝えした学校訪問での授業参観時の視点（地区重点3つの柱）について、学習状況調査の始良・伊佐地区結果を経年変化に着目してお知らせします。（数字（％）は、強肯定の割合で、R8.2.27現在のもの。（ ）内は、県平均との比較）

質問項目	R4小5	R6中1	R7中2
この学年で受けた授業について、あなたは、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。（主体性）	30.4 (+1.3)	25.5 (+1.0)	32.6 (+2.5)
分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。（自己調整）	項目 なし	25.1 (+1.7)	34.8 (+1.8)
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。（省察力）	35.2 (-1.1)	32.9 (+2.0)	31.9 (+2.3)

上記結果は、現在中学2年生の3つの柱における経年変化を表したものです。主体性や自己調整に関しては、小学生の時よりも数値が増加し、子供たちの意識が向上していることが分かります。この結果から、子供たちが「問い」や「見通し」をもつための手立てや学習方法や学習形態を自己選択・自己決定しながら課題解決を図る手立てなどが充実し、授業改善が進んでいることが分かります。一方、省察力に関しては、数値が減少し、子供たちの意識が低下していることが分かります。この意識を向上させるためには、「振り返りの充実」が重要です。振り返りの時間の確保、視点を与えた振り返り、振り返りの価値付け、次時での振り返りの活用などの手立てにより、子供たちのメタ認知力を向上させ、「学習者主体の授業」づくりを進めてください。

始良・伊佐地区教育論文・実践記録

今年度も多くの先生方から幅広い研究・実践の応募がありました。応募作品543編の中から12編を教育論文・実践記録データ集にまとめました。今後の教育活動において大変参考になる実践です。ぜひ御活用ください。（今年度からデータで各学校へ配布します。教育論文・実践記録データ集は、3月配布予定です。）

【優秀賞受賞者】

岩元 愛美 教諭(霧島市立上小川小学校) 生徒指導	長井 理香 養護教諭(霧島市立永水小学校) 保健指導
大重 嘉孝 教諭(霧島市立国分南中学校) 主権者教育	太田 泰輔 教諭(伊佐市立牛尾小学校) 複式指導
別府 佳代 教諭(伊佐市立曾木小学校) 道徳科	濱田 一平 教諭(始良市立柁城小学校) 教育方法改善
岩切 栄太朗 教諭(始良市立帖佐小学校) 理科	本多 浩輔 教諭(始良市立建昌小学校) 学習者主体
竹之内 誉子 教諭(始良市立三船小学校) 国語科	大塚 佳子 教諭(始良市立始良小学校) 特別支援教育
上岡 早織 教諭(始良市立帖佐中学校) 外国語科	旭 悠大 教諭(湧水町立幸田小学校) 体育科

【緑の教育賞（学校賞）受賞校】

霧島市立国分南小学校	霧島市立天降川小学校	伊佐市立平出水小学校
伊佐市立大口中央中学校	始良市立柁城小学校	始良市立建昌小学校
始良市立西浦小学校	湧水町立幸田小学校	湧水町立吉松小学校

小・中学校臨時的任用教職員募集

始良・伊佐地区で**先生**になろう！



未来を拓く 子供たちの
良き伴走者になりませんか。

【問合せ・連絡先】

始良・伊佐教育事務所 管理課

電話 0995-63-8133



↑ 申込み方法等
はコチラから



↑ PR動画は
コチラから

シリーズ！ 始良・伊佐教育事務所員が紹介する
私の元気の出る言葉 ②

「きっと大丈夫」

始良・伊佐教育事務所に赴任したばかりの頃は、分からないことだらけで、とにかく失敗が怖かったです。

しかし、周りの人と一緒に仕事を進めていく中で、緊張感だけではなく、気持ちの余裕も必要だということに気がきました。それからは、余裕をもって迅速に、そして、正確に仕事に取り組むことを目標にしています。

今でも、仕事に追われて焦る時や不安な時があります。そんな時は、「たいていの失敗はなんとかなる。だから、もっと広い視野をもって落ち着いてやっていけば、きっと大丈夫。」と自分に言い聞かせて、何事にも落ち着いて取り組むようにしています。(M. I)

令和7年度県・地区研究協力校（5校）研究公開の様子

学校名・公開日等	研究テーマ等	研究公開の内容	研究公開のまとめ
霧島市立天降川小学校 「道徳教育」 R7.6.27公開	学び合いを重視した、主体的・対話的な授業の創造 ～考え、議論する道徳の授業づくりを通して～	研究発表では、「聴き合う関係づくり」や「学び合いのある授業」、道徳科における「価値観」「児童観」「教材観」を明確にした授業づくりや「学び合い」の在り方、道徳的価値に目を向けた授業参観、良質な「問い」を追究する取組等について紹介されました。2年生の公開授業では、ねらいとする価値を深く考えさせるために、心情メーターを活用して心情を可視化しました。それを基に子供たちは、「しっかりとやり抜く心」について、自分なりの根拠をもって話し合い、多様な考えに気付くことができていました。	
霧島市立小浜小学校 「学力向上（授業研究研修）」 R7.11.13公開	仮説検証的な授業づくりによる授業改善の実現 ～児童が「楽しい」と思える算数科の授業づくり～	児童が「授業が分かる楽しさ」「学習に取り組む楽しさ」を感じられる授業を目指し、『時間的要素』『ファシリテーター的要素』『協働的な学びの要素』の3つの視点を設定し、チームでの授業づくりや授業実践、授業研究を行いました。3・4年生の算数科の公開授業では、複式指導の特性を踏まえ、学習形態や方法を児童が選択できる場面を設け、主体的な課題解決を促しました。また、学習のまとめでは、児童用ルーブリックを活用して本時の学習を振り返り、次時への意欲を高める姿が見られました。	
霧島市立溝辺小学校 「生徒指導（魅力ある学校づくり）」 R7.11.28公開	誰もが楽しく通える「魅力ある学校づくり」を目指して ～魅力ある授業づくりを中心とした「居場所づくり」と児童の主体的な活動を通した「絆づくり」～	「楽しく登校して、笑顔で過ごし、満足して下校する子供」を目指す子供の姿として設定し、生徒指導提要で示されている生徒指導実践上の視点を踏まえた「居場所づくり（魅力ある授業づくり）」と「絆づくり（子供主体の活動）」を柱として、研究を進めました。2年生の算数科の研究授業では、日常生活に即した課題を設定し、複数の解法から自分に合った解法を子供が選択できるようにしました。終末では、本時で分かったことだけでなく、友達を考え方や自身の学び方等について振り返る姿が見られました。	
始良市立建昌小学校 「学習者主体の授業」 R7.12.5公開	主体的に学習に取り組み、「智をみがく建昌の子」の育成 ～学びの変容を捉え、自己調整を図る授業を通して～	「振り返りの工夫」、「見通す・選択する場の工夫」、「環境の工夫」等に関する具体的な実践を通して、研究を深めました。公開授業では、2単位時間にわたり、計10本の授業が公開されました。全体を通して、数多くの選択肢の準備と実態に応じた的確な支援で、子供たちはゴールを意識し、協働的に自己調整しながら学習を深めていました。また、全体会では、パネルディスカッションや講演を通して、「学習者主体の学び」について、参加者同士が対話しながら、理解を深めることができました。	
始良市立三船小学校 「学力向上（国語科）」 R8.2.6公開	文章を正確に理解し、自分の思いや考えをもつことができる児童の育成 ～「螺旋的・反復的な指導」を通して～	「系統性のある読みの指導」と「共通実践の明確化」を柱として、国語科を中心に全校で方向性を共有し、授業改善に取り組みました。公開授業では、1年生・6年生ともに、『印をつけながら読む』『国語用語の活用』『三船ペンタゴンによる振り返り』『学び方の選択』等、学校全体で取り組んできた共通実践を活用しながら、自分の考えを整理し、根拠を明確にしながら学びを広げたり、振り返りて分かったことやできたことについて言語化したことを友達と交流したりする姿が見られました。	

「魅力ある学校づくり」のために

生徒指導提要にある「魅力ある学校づくり」はすべての児童生徒を対象にした、授業や学校行事等の充実による「居場所づくり」や「絆づくり」を行うことで、不登校の未然防止を図る取組です。来年度に向けた準備期間であるこの時期に、次のような取組を取り入れてみてはいかがでしょうか。

「子供の声」の意識調査

児童生徒と教師にとって「魅力ある学校」にするために、下の4つの項目について子供の声を聴く「意識調査」を指標として、教育活動の改善、見直しを行います。（年3回程度）

- | | |
|------------------|------------------|
| ア 学校が楽しい | イ みんなで何かをするのは楽しい |
| ウ 授業に主体的に取り組んでいる | エ 授業がよく分かる |

安心して登校できる「居場所づくり」と主体的な活動を通した「絆づくり」

「居場所づくり」とは、児童生徒が安心して自己肯定感をもてる環境を教職員が整えることで、「絆づくり」とは、児童生徒が主体的な活動を通じて、児童生徒同士や教職員との関係性を深めることを指します。

取組内容例（既存の取組が何のための取組なのかを意味付ける）

- | | |
|------------------|----------------|
| （例）・ 魅力ある授業づくり | ・ 温かな学級づくり |
| ・ 児童生徒との絆づくり | ・ 保護者との信頼関係づくり |
| ・ 児童生徒が企画・運営する活動 | |

令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果

～公表された全校調査の結果から、本地区の課題と注目すべきポイントについて～

目標

国の教育振興基本計画 (R5.6月)

- ◎ 1週間の総運動時間(体育の授業を除く)が60分未満の児童生徒の割合の減少
- ◎ 卒業後もスポーツをしたいと「思う」「やや思う」児童生徒の割合の増加

県の教育振興基本計画 (R6.2月)

- ◎ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点が全対象学年で全国平均を上回る
- ◎ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の1週間の総運動時間 420分以上の割合が全対象学年で全国平均を上回る

体育の授業以外で、どれだけ体を動かしていますか？

小(中)学校卒業後も自主的に運動したいですか？

チェックポイント

校種	性別	区分	運動時間(分)
小学校	男子	全国	524.14
		県	476.11
		地区	491.77
	女子	全国	315.80
		県	291.54
		地区	310.07
中学校	男子	全国	758.46
		県	762.01
		地区	774.92
	女子	全国	520.28
		県	535.71
		地区	562.83

小学校においては、国の平均を下回っています。
小学校女子は、1日60分(週420分)以上という国、県の目標値を大きく下回っています。

校種	性別	区分	思う+やや思う
小学校	男子	全国	86.93%
		県	87.21%
		地区	83.91%
	女子	全国	80.59%
		県	80.54%
		地区	81.88%
中学校	男子	全国	87.30%
		県	87.61%
		地区	91.07%
	女子	全国	75.97%
		県	78.32%
		地区	80.26%

小学校男子が、国、県平均を大きく下回っています。

◎運動習慣の実態や、運動に対する意欲を定期的に把握し、取組に生かしましょう。

◎計画的、継続的に楽しんで運動できる場や機会を設定しましょう。

体力・運動能力の比較 (T得点による比較)

校種	性別	区分	握力	上体起し	長座体前屈	反復横跳び	20mシャトルラン	50m走	立ち幅跳び	ボール投げ	合計点
小学校	男子	県	49.8	48.4	48.7	48.8	50.2	49.9	49.5	51.3	49.2
		地区	50.5	47.6	47.5	46.6	50.2	50.4	49.5	50.6	48.4
		全国	50.0	48.2	48.6	49.2	51.2	50.5	49.8	50.6	49.6
	女子	県	51.9	49.5	46.8	49.6	52.2	51.5	50.3	51.9	50.8
		地区	49.4	48.7	48.6	49.5	50.9	49.0	49.6	49.7	49.1
		全国	50.0	51.0	46.8	49.5	50.8	49.7	49.6	49.0	49.0
中学校	男子	県	49.5	49.1	48.5	50.2	51.2	49.3	50.0	49.8	49.5
		地区	51.7	50.3	46.9	51.2	50.7	50.2	51.3	50.2	50.4
		全国	50.0	51.0	46.8	49.5	50.8	49.7	49.6	49.0	49.0
	女子	県	49.5	49.1	48.5	50.2	51.2	49.3	50.0	49.8	49.5
		地区	51.7	50.3	46.9	51.2	50.7	50.2	51.3	50.2	50.4
		全国	50.0	51.0	46.8	49.5	50.8	49.7	49.6	49.0	49.0

T得点 48 以下は、明らかに全国平均と差があることを意味します。これを踏まえると、特に「**長座体前屈**」が本地区の課題であることがわかります。本地区の児童生徒は、日常生活において柔軟性を高める運動が不足しているのではないかと推測されます。

※運動好きを育てるための工夫を！！

学校支援専門官 学校訪問記録 (第2回)

地域が育む「かごしまの教育」県民週間や2学期の学校支援専門官「学校訪問」において、管内37校の小・中学校を訪問しました。学校規模に関わらず、学校は諸課題を抱えながらも、児童生徒や保護者、地域のために前を向いて進んでいます。【組織力・推進力】を直接感じる事ができました。現在は管理職との語りを中心ですが、今後は「教職員の皆さんと短時間でも、もっと語ることができたら!」と思っています。3学期は、これまで訪問できていなかった学校を中心に訪問しています。(全校訪問できなくてすみません。)

今回の訪問等で感じた学校や子供たちの様子を数例紹介します。

【学校は、】

- 学校が抱える諸課題に、前向きに、そしてチーム一丸となり対応している。
- 児童生徒のためにある学校行事を大切にしている。
- 若手教職員は先輩教職員から助言を受け、学校の核として業務に取り組んでいる。



【子供たちは、】

- 寒さが厳しい中、休み時間は校庭や体育館で元気に過ごしている。
- 授業に集中している。授業中に笑顔があふれ、元気な声が響いている。
- あいさつは継続してとてもよい。中には、学校全体で立ち止まってあいさつする姿がある。とても気持ちよく、また訪問してみたいと思わせてくれる。
- 各種検定試験や各種作品展への応募、文化・体育系各種大会で好成績を収めている。(九州大会や全国大会出場)

【地域は、】

- 横断歩道や通学路の要所で、登下校の児童生徒を見守っている方々がとても多く、「子供たちを地域で育てる環境」がすばらしい。
- 地域住民の方々が率先して講師をつとめている授業が多く見られ、コミュニティ・スクール(地域とともに歩む学校)の実践を感じる。